

# 独立行政法人 国立病院機構 いわき病院

研究検査科 湯田 智子

当院は、昭和 22 年 4 月に厚生省管轄の国立療養所翠ヶ丘病院として、塩屋崎灯台を望むいわき市豊間に発足し、昭和 60 年当時の再編計画見直しで重症心身障害児（者）医療の専門医療施設として機能類型がなされました。神経難病及び血管障害医療としての脳卒中後遺症リハビリテーションを併せて担当し、国の政策医療に対応しています。

平成 23 年の東日本大震災で津波により被災したことから、安心安全な環境で医療を提供出来るよう、海岸線沿いの豊間から内陸の小名浜野田に H30 年 2 月新築移転しました。

現在当院は、福島県重症難病患者療養支援ネットワーク事業の基幹協力病院に指定されており、福島県浜通り地区における神経難病医療の中心的な存在となっています。入院病棟は、重症心身障害児（者）2 病棟 84 床、神経難病・脳血管障害 2 病棟 70 床（20 床は療養介護サービス）の 154 床で運営しています。平成 24 年 4 月から、福島県で初めての神経筋難病を治療する医療用ロボットスーツを導入し、立ち上がり動作能力の低下や歩行能力障害を改善する治療も行っています。また、3 テスラの高磁場 MRI 装置を導入しており、診断機能の充実を図るとともに共同利用を行い地域医療に貢献しています。

当研究検査科は、研究検査科長の下、臨床検査技師 2 名で日常業務を行っている小規模の検査室ですが、検体検査（生化学、血液、一般、免疫血清、輸血、細菌）や生理機能検査など、多くの検査項目を網羅し幅広い検査に対応しています。特に生理機能検査では、NCS や SEP、ABR、脳波などの神経生理検査を得意とし、多くの症例を検査しています。2 名体制での検査業務は負担も大きいですが、ジェネラリストとして多分野の知識を習得できるので、総合的な判断力とスキルアップに繋がっています。

今後も、いわき病院の臨床検査技師として精度保証された矛盾のない検査を行い、患者さんの目線に立った医療を提供できるように心がけていきたいと思ひます。

